

東書 三年下

はりねずみと金貨

ウラジーミル・オルオフ 作
田中 潔 やく
パレンチン・オリシバング 絵

○ 目標

- ・ 年若いたはりねずみが、一枚の金貨を拾うことからこの話が始まり、元の場所にその金貨を戻すことで話が終わる。その間の他の動物との温かか交流（お金の働きの本質）を読み取ると共に絵本の楽しさを味わう。

第一次（概観） 指導（一時間）

〈区画〉 七区画（絵に合わせて。絵にも番号）

一よむ（音読 七名）

二とく（読後感の話し合い）

○ 題目

- ・ この話は絵本です。絵を見ながら話を整理しましょう。（①の絵で5withを考える）

① 絵を見ると、季節がわかります。いつか。

秋 （冬に近い秋 秋と板書）

② 場所はどこでしょうか。

森の小道 （森の小道 板書）

③ （水たまりを指し）これは何に見えるかな。

水たまり

④ 雨が降って水たまりができたのね。雨が降ったことがわかる物が他にもあります。何。

傘

⑤ 傘を持っているのは誰ですか。

はりねずみ

- ⑥ はりねずみは左肘に傘をかけて、左手の指で何かをかけようとしています。何ですか。

メガネ

- ⑦ このメガネは、何メガネかわかるかな。

老眼鏡（他の絵では眼鏡をかけていない）

- ⑧ このはりねずみは年寄りです。老眼鏡をかけて何を見ようとしていますか。

金貨 （1の下辺りに 金貨 板書）

○ ひびき

- ⑨ 眼鏡で見ると、右手の掌の上の物は金貨でした。どうして、この金貨に気付いたのかな。

雨に洗われてきらきら光ったから

- ⑩ はりねずみが、拾った金貨を最初に見せた絵を開けて、金貨はどこにあるか指してください。

②の絵 両手の中を指す。

- ⑪ 次に金貨を描いてある絵を探してみましょう。

- ⑦の絵です。

- ⑫ ここは、どこでしょうか。

最初に金貨を拾った所

- ⑬ 金貨をどうしようとしているのですか。

金貨を道端に置く

- ⑭ はりねずみは金貨を拾いましたが、それを使わずにみんなに助けられて金貨を元に戻したという面白い話です。（7の下辺りに 金貨 板書）

○ 手引き

- ・ 2〜6（5は○）で、はりねずみが会った

動物と、もらったプレゼントを探してください。
書くのは会った動物だけでよいです。

三よむ（指示に沿って黙読）

四かく（視写）

1	金貨
2	りす
3	からす
4	くも
5	○
6	子ぐま
7	金貨

五よむ（指黙読 指音読）

六とく（板書をもとにした話し合い）

○ 事実・区分

- ① 冬籠りをするのは、はりねずみと何ですか。

くま

- ② 子熊は、はりねずみおじいさんに何を持って来てくれましたか。

（蜂蜜の壺）

- ③ 蜂蜜のプレゼントです。では、買うのを諦めていた時のプレゼントは、何を、誰が。

乾し茸をりすが （ほしきのこ 板書）

- ④ りすがさんが袋いっぱい乾し茸をくれました。

- ⑤ 金貨を出すと、りすさんは、その金貨で何を

買うといいと教えてくれましたか。（くつ）

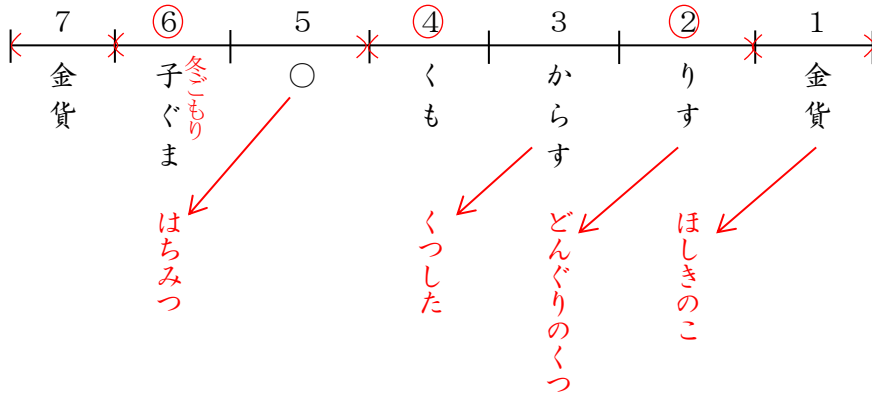
- ⑥ 靴をプレゼントしてくれたのは何・どんな靴。

- ⑦ からは、金貨を何に使えと言ったの。
靴下
- ⑧ もうすぐ冬だから温かい靴下を買うように優しく話してくれました。靴下は誰が。
くも
- ⑨ くもの手作りの品。ピッタリの靴下でした。
くもも金貨受け取らず、何と言ったの。
またいつか、役に立つかも
- ⑩ りす・からす・くものお蔭で気持ちよく冬が過ぎそうだと嬉しくなったはりねずみです。家の近くで忘れ物に気付きました。何ですか。
はちみつ
- ⑪ 今日は、みんなの親切で冬籠りの準備ができました。拾った金貨が魔法の働きをしてくれました。誰かの役にたつかもしれないと金貨を元の道に置いて気持ちよく帰ったという話を大きく四つに分けます。蜂蜜の話が書いてあるのはどこですか。そして、買い物をするとして、買っているのはどこですか。
5番6番と2番から4番
- ⑫ 1番は金貨を拾った所。7番は金貨を戻した所と四つに分けられました。
- ◎山
- ⑬ この話の面白いところ、楽しいところを三時間で勉強します。どこを詳しく読みたいですか。
(希望を聞く。 2・4・6を想定)
- ⑭ 家で絵を見ながら読んでらん。面白いよ。
○余韻(はりねずみおじいさん、よかつたね)

七よむ (全員で板書を指音読)

〔板書事項〕

あき 森の小道 雨
はりねずみと金貨
年より



第二次指導第一時

一よむ (音読 七名)

二とく (本時の足場作りの話し合い)

○おさらい

① はりねずみが、冬籠りに必要ななど、考えたものが二つありました。何ですか。
乾し茸と蜂蜜

② 乾し茸は、誰から手に入れましたか。
りす

③ りすに会ったのは何番か。
2番 (区画線と番号 りー 板書)

④ 蜂蜜は誰にもらって何番に書いてあったか。
子ぐま 6番 (子ー 板書)

⑤ 3番、4番は、誰に会ったの。
からす くも (かー くー 板書)

⑥ 鳥と蜘蛛は何をしてくれたの。
どんぐりの靴と靴下を作ってくれた。

⑦ その時、はりねずみが渡そうとしたのは何金貨。
その金貨をはりねずみはどこで手に入れたの。

⑧ その金貨をはりねずみはどこで手に入れたの。
森の小道 (1 金ー 板書)

⑨ その金貨を森の小道に戻したという話。
(7 金ー 板書)

◎承接

⑩ 乾し茸を売っている所が見つけれなかったはりねずみは、だれの家の下で金貨を見つめたため息をつきましたか。(りす)

⑪ りすとはりねずみはどんな話を始めましたか。
金貨と茸の話

○手引き

・冬籠りのための茸をこの金貨で買おうとした

後の、二人の会話を書いて、二人の様子を詳しく読みましょう。

三よむ (黙読)
四かく (視写)

「なあんだ。きのこがほしいなら、わたしが、ただあげるわよ。」
「たっぷりめしあがって。その金貨は、くつにつかうといいわ。おじいさんののは、もうぼろぼろなもの。」
「ありがとう、りすさんや。年よりを気づかってくれて。」
「あんたが言うように、くつをさがしてみるよ。」

五よむ (指黙読 指音読)
六とく

○語義・区分

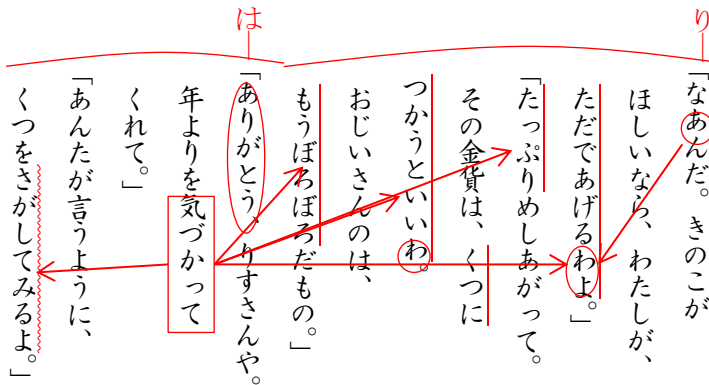
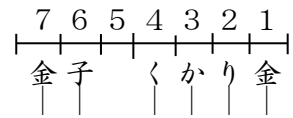
- ① なあんだ たっぷり …のは 気づかかって
- ・二区分 (前 りす 後 おじいさん)

◎心

- ② 「ありがとう」とお礼を言っています。りすさんの何が嬉しいのでしょうか。おじいさんの言葉の中で探してください。(気づかかって)
- ③ りすの気づかいが出ているのはどこ。(なあんだ。ただであげるわよ。たっぷりくつにつかうといいわ。ぼろぼろ)
- ④ 女の栗鼠で明るい感じ、どこでそう感じますか。(なあんだのあ わたし わよ いいわ)
- ⑤ あちこち探したけれどもどこにも売っていないのでがっかりしていた時に親切にされたので、非常に嬉しかったの。おじいさんの言い方にも、それが出ています。普通の言い方と順序が違うでしょう。(普通の文にして読んで聞かせる)

○余韻 (嬉しかった様子が目に見えるよう)
七よむ (指音読)

〔板書事項〕



第二次指導第二時

一よむ (音読 七名)

二とく (本時の足場作りの話し合い)

○おさらい

- ① りすが、はりねずみを気遣ったことは何。乾し茸と靴のこと
- ② 乾し茸を渡した量が分かる栗鼠の言葉は。たっぷり召し上がれと
- ③ 靴はどんな靴だったの。もうぼろぼろ
- ④ はりねずみは、栗鼠の気づかいが嬉しくて、何を買うことに決めたの。靴を買うこと

◎承接

- ⑤ どこで靴を買ったらいいか悩みながら歩いていると、「どうしたね、おじいさん。落し物かい」と声をかけたのは何ですか。からす
- ⑥ からすに、おじいさんは、何と応えましたか。靴屋を探している
- ⑦ すると、からすは、何と応えましたか。靴ぐらいおれが作ってやると
- ⑧ どんな靴を作ってくれましたか。どんぐりでぴったりの靴
- ⑨ からすも親切にどうしろと言いましたか。もうすぐ冬だから温かい靴下を
- ⑩ 新しい靴を履いて靴下を買おうときよるきよろしながら歩いていると、声をかけたのが蜘蛛です。何ときましたか。何を探しているのさと
- ⑪ はりねずみが靴下を探していると伝えると蜘蛛は、どうしてくれました。自分の編んだ靴下をくれた

○手引き

・ はりねずみが、履いてみた靴下のことを考えながら、はりねずみのお礼とくもの言葉を書きます。さらに、最後に文も書き足してください。

三よむ (黙読)

四かく (視写)

「ありがとう、くもさんや。すばらしいくつ下じゃ」
 「どういたしまして。かぜをひかないようにね。
 そのお金はどこかにしまっときなよ。またいつか、役に立つかもしれないし」
 くもとわかれたはりねずみは、ほかほかした気分
 で家路につきました。

五よむ (指黙読 指音読)

六とく

○語義・区分

- ① すばらしい じゃ どういたしまして
 しれないしき ほかほかした 家路につく
- ・ 二区分(くも はりねずみ) くもを三区分

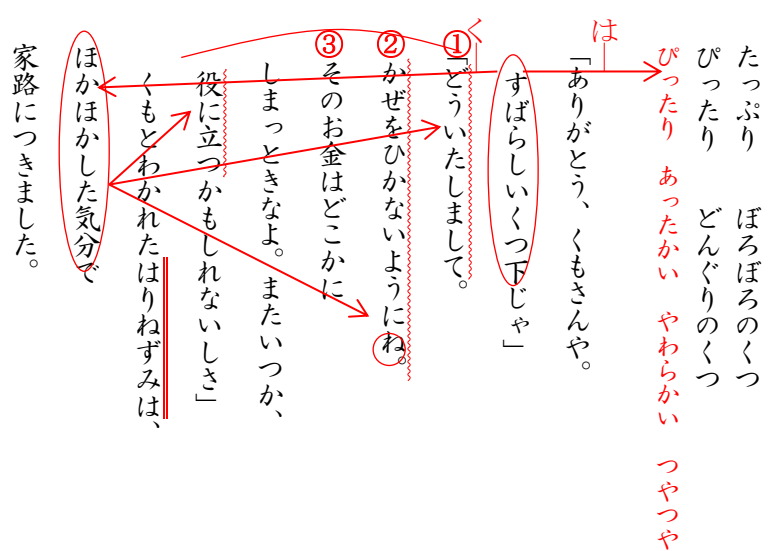
◎心

- ② これで冬籠りの準備ができたと思ったはりねずみは、どうしましたか。(家路につく)
- ③ 歩きながら誰のことを考えていますか。
 りす・からす・くも
- ④ どんな気持ちになったかが分かる言葉は何。
 ほかほかした気分になったもとを、蜘蛛の所で考えます。ほかほかになる言葉がどこにありますか。
- ⑥ この話は、栗鼠から鳥へ、鳥から蜘蛛へとリレーになっています。蜘蛛の言葉の中に次の話につながるのがあるの。家で探してごらん。

○余韻(よかったね、はりねずみじいさん)

七よむ (指音読)

〔板書事項〕



第二次指導第二時

一よむ (音読 七名)

二とく (本時の足場作りの話し合い)

○おざらぐ

- ① おじいさんは、蜘蛛の作った靴下を履くと、足はどうなりましたか。

暖かく(ほかほか)

- ② 柔らかくて暖かい靴下を履いて、蜘蛛に礼を言つて家に帰りました。蜘蛛は、どんなことを言つて分られましたか、三つあげて。

どういたしまして。

かぜをひかないようにね。

お金はしまっときな。

◎承接

- ③ 蜘蛛と分かれたはりねずみは、今日会つた三匹のことを思いならどんな冬になると考えたの。気持ちよくすごせそうだ。

- ④ ところが、家の近くまで戻つてくると、蜘蛛の言葉を思い出しました。何だろうね。
 かぜをひかないようにね。

- ⑤ そう、咳のことを思い出したの。何が必要だと。

(蜂蜜を用意すること)

- ⑥ 気づいたのが、遅かった。辺りはどうなつてきていたの。

赤く暮れかかっている。

- ⑦ 今日は諦めるしかなかった。その時、声が聞こ

えてきたのね。誰の声。

子熊の声

⑧ 子熊が、息もつかずに話し出したことが二つあります。一つは、冬籠りのこと。もう一つは、

目が覚めたらまた話を聞かせて

⑨ 今年が初めての冬籠りの子熊が、春までお休みという挨拶と春には話とお願ひしたの。その話を聞いていたはりねずみの顔はどんな顔に

目をぼちくりした。

○手引き

・ 子熊とはりねずみの様子を想像しながら、目をぼちくりしているはりねずみに、続けて話す子熊の言葉から最後まで書いてください。

三よむ (黙読)

四かく (視写)

「はい。これお母さんから。」

と、小さなはちみつのつぼを手わたすと、また、もと来た方へかけていきました。

「きつとだよ！」

子ぐまが見えなくなるまで、じっと見送っていたはりねずみが、ふと気づくと、それは今朝、金貨を拾ったあたりでした。

五よむ (指黙読 指音読)

六とく

○語義・区分

① これ わたすと また ! じつと ふと
それは あたり

・ 二区分 (子ぐま はりねずみ) 更に各二区分

◎心

② 子熊もおじいさんも、お互いに仲よしだと分かるのは、どの言葉だろうか。
きつとだよ! (子熊)

見えなくなるまでじっと見送る(おー)

③ おじいさんの話は面白かったでしょうね。その話を子熊は、誰にしたと思う。
お母さん。

お母さん。

④ 子熊が大好きなおじいさんのことをお母さんも気づかっているのが分かります。どこで。
蜂蜜の壺

蜂蜜の壺

⑤ 冬のおじいさんのことを考えて届けてくれたのですね。おじいさんにも、そのことが分かりました。どこに出ていますか。
じつと見送る

じつと見送る

⑥ おじいさんは、心配していた冬籠りの準備がみんなの気遣いでできました。そして、おじいさんも、気遣いをしました。何をしましたか。
「誰かの役に立つかも」と金貨を置いた

「誰かの役に立つかも」と金貨を置いた

⑦ これで、おじいさんもほかほかした気分が家に帰ることができたという話でした。

⑦ この絵本は、読んでいると心が温かくなります。どうしてかを考えながら家でも絵本を楽しんでください。

⑦ この絵本は、読んでいると心が温かくなります。どうしてかを考えながら家でも絵本を楽しんでください。

楽しんでください。

○余韻 (おじいさんの話を聞きたいなあ)

七よむ (指音読)

〈板書事項〉

ほかー

かぜー

お金ー

おやすみ

お話

「はい。これお母さんから。」

と、小さなはちみつの

つぼを手わたすと、また、

もと来た方へかけて

いきました。

「きつとだよ!」

子ぐまが見えなくな

なるまで、じっと見送って

ました。その

いたはりねずみが、ふと

気づくと、それは今朝、

金貨を拾ったあたり

でした。

だれかかの役に立つかも